

牧野植物園の 取り組み

高知県立牧野植物園は、開園以来、高知県の豊かな自然を知り、守り、育て、伝える活動に取り組んでいます。県内外の植物愛好家や植物調査ボランティアと協働し、高知県植物誌(2009)を刊行、絶滅危惧植物調査や保全活動、外来植物調査などをおこなっています。また、行政や地域住民の進める保全活動を科学的な視点からサポートしています。

牧野植物園 による 防除活動



オオハンゴンソウ

※高知県の外来植物調査の一部は、高知県受託事業「外来種(植物)生育分布調査業務」(こうちふるさと寄附金活用事業)および公益財団法人日本科学協会笹川助成「ストップthe外来植物」によって実施されました。

外来植物調査

高知県の植物多様性を守るために

高知県内に生育する外来植物の種類やどこに生えているかなどを調べる「外来植物調査」を、市民と協働で2016年7月から2019年3月までおこないました。調査にはのべ2,657名が参加し、8,919件の外来植物の情報が収集され、県内には外来植物727種類が生育することが確認されました。これらの情報をまとめた『高知県の外来植物2019』を発行し、外来植物の分布状況の周知を図っています。

※『高知県の外来植物2019』は、牧野植物園ホームページからダウンロードできます。
http://www.makino.or.jp/fixed/?page_key=science-new_2#s3



特定外来生物

オオハンゴンソウ

【津野町との連携】



貴重な植物が生育する津野町天狗池周辺が、公園として整備されたときに導入した植物に混じり、オオハンゴンソウの種子や幼苗が侵入したと考えられています。2017年から、地域住民、植物調査ボランティア、津野町、高知県と協働し、防除活動を開始しました。徐々に効果が現れ個体数が減少していますが、根絶に向けた防除活動の継続が大切です。

特定外来生物

ナルトサワギク

【芸西村との連携】



東西約4kmにわたる美しい海岸線を有する芸西村琴ヶ浜に、2002年、ナルトサワギクの生育が確認されました。現在は、防潮林内や内陸部へ、分布域が拡大しています。2018年から、芸西村環境の日に合わせて地域住民や芸西村と一緒に、植物調査ボランティア、高知県と協働し、分布拡大を防止するため、防除活動をおこなっています。